

## 団研係より

### ①つくば総会「団研写真展」「自慢の露頭写真展」の報告

5年ぶりの写真展をおこないました。今回の特色は、写真を展示してもらうだけでなく、各出展者から作品の説明（解説）をしてもらったことです。それぞれの作品がどのような意味を持つか、また撮影にあたっての苦労話など、とても楽しく出展者との交流ができました。



(左) 団研写真賞 (原発団研・小林雅弘さん)、(中) 自慢の露頭写真賞 (大坪友英さん)、(右) 会場風景

### ②地団研高田総会 (8/29-8/31) での写真展

高田総会でも写真展を開催します。写真1枚の単独作品か、数枚(上限5枚程度)の組み写真として募集します。ぜひ作品の出展をお願いします。

### ③団研ニュースの原稿募集

団研ニュースは年3号(春・夏・冬)発行しています。2023年夏号からカラー刷り、2024年夏号から地団研HPにも掲載しています。各団研の予定や、面白かったこと、活動の雰囲気が伝わるコラム、体験談など、コンパクトで結構ですので、多くの団研からの投稿をお願いします。団研交流や若手会員への紹介に活用しましょう。

### ④団研年表のまとめについて

2010年までの団研活動は「地学教育と科学運動」69号(2013年3月)で報告されています。2010年以降の団研活動について、2025年にまとめ、年表とともに「地学教育と科学運動」へ投稿する予定です。各団研に団研活動報告書(団研登録)用紙を送りますので、記入、提出のご協力をよろしくお願いします。また、新たに団研登録を考えているグループも是非ご連絡下さい。

## <岩見沢団体研究グループ>

10月20日に行った野外調査を最後に、冬季間は室内団研に切り替わりました。11月から1月までに6回の室内団研を実施しました。内容は、野外調査の際に採取した火山灰試料の砂粒組成分析です。水洗した試料を篩にかけて粒度を揃え顕微鏡で観察しています。顕微鏡で鉱物や火山ガラスの形状を見る中で、新たな課題も見つかってきました。なかなか一筋縄ではいかないようです。室内団研で北海道教育大学岩見沢校の能條さんの実験室を使わせていただいています。岩見沢は道内屈指の豪雪地。千歳が快晴でも、岩見沢のある空知地方は猛吹雪になり鉄道も高速道路もストップすることがままあります。

暖冬傾向の今シーズンの北海道ですが、度々予定した集まりが暴風雪で延期になるなど集まるのも一苦労しています。冬季の野外調査は無理なので、雪解けの時季までは室内でできる作業を中心に仕事を進めてゆく予定です。

次回からは、能條さんの研究室の学生さんが団研の集まりに加わってくれる予定です。若手の参入で団研の平均年齢がグーンと下がり、新しい風が吹き込むことを期待しています。

連絡先：金川和人 [kanagawa@pop12.odn.ne.jp](mailto:kanagawa@pop12.odn.ne.jp)



真剣に検鏡して疲労困憊？

### <関東山地研究グループ>

近況 夏の陣以降一時休止していた活動も、隊長の体調も良くなり春の陣を開催することになりました。土石流堆積物をともなう砂礫岩層の実体が、学習会や今までの調査で少しずつわかりつつあります。

春の陣 期 日：2025年3月29日（土）～31日（月）  
集 合：3/29（土）12：00 下仁田町自然史館  
内 容：跡倉累層中ノ萱礫岩部層の分布と堆積ユニット区分  
宿 泊：かぶら宿 3,000円/1泊（学割あり）  
連絡先：保科 裕 [mikabogreen@jcom.home.ne.jp](mailto:mikabogreen@jcom.home.ne.jp)

### <島弧深部構造研究グループ>

◆私たちの研究グループは、「地形・地質と地震との関係を探り、地下深部の構造を明らかにしよう」という目的で2001年に発足しました。翌年からはネオテクトニクス研究グループのメンバーも一緒になって研究をすすめています。現在は、年2回（2月、8月）オンラインで合同研究集会を開き、集会と集会の間はグループの課題や各個人の課題にとりくみ、合同研究集会でその成果を発表して討論・意見交換をおこなっています。

◆今年は、2月16日（日）13:00～17:00にオンラインで研究集会を開きます。8月にも開く予定です。  
連絡先：足立久男 [q.adachi@outlook.jp](mailto:q.adachi@outlook.jp)

### <秩父盆地団体研究グループ>

秩父盆地団研は、盆地基底部分の中新統の調査をすすめています。現在の調査地域は盆地北東部・前原地域です。それと並行して、堆積盆地の発生年代についての論文作成も行っています。

先日（2025. 1/12）、埼玉支部の新年例会で秩父での巡検が行われました。2022年に論文発表した桜ヶ谷地域と、現在調査を行っている前原地域を支部会員の皆さんにみていただきました。露頭の見方についていろいろな専門の方々から多くの貴重なご意見をいただき、団研としてとても勉強になりたいへん有意義な会になりました。1月末に室内団研が行われ、巡検に参加されなかったメンバーも含め、この時に指摘のあった内容について共有しこれからまとめていく論文に生かしていくことを確認いたしました。

堆積盆地の発生過程について興味をお持ちの方はご連絡ください！  
連絡先：岡野裕一（埼玉支部・県立所沢中央高校） [72okanov@gmail.com](mailto:72okanov@gmail.com)



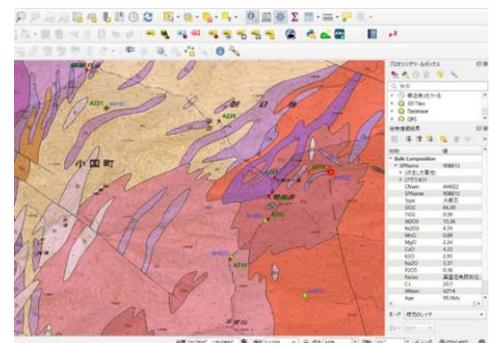
桜ヶ谷の不整合露頭の観察

### <朝日団体研究グループ>

団研では、朝日山地の種々の花崗岩類について火成活動の時間・空間的な変遷とその意義について現時点での最終的な報告をするべく活動している。

その過程で調査と分析の成果をGISにまとめる作業を昨年からは始めており、地質の分布や化学分析と年代測定の成果をやっとデジタル化して議論に使えるところまで来たことを報告する。

ソフトは遅まきながらQGISを使用した。このソフトは無料のオープンソースソフトウェアであるが、高額？有料の従来ソフトに比べてもほぼ同等の機能を持つ。図は、QGISの画面を切り取ったもので、メインの画面に地質図と分析試料の位置とサンプル



QGIS 朝日山地の花崗岩類（仮称）の一画面

番号が示され、その位置をクリックすると右側のウィンドウに試料名や分析値が表示できる。使い始めはとっつきにくい点もあるが、CADに比べてデータの入力や修正が容易で、イラストレーターより位置情報等のデジタルデータ操作に優れていると感じている。まだの方はぜひお試しください。

連絡先：大坪友英 [ohtsubo@tokyocivil.co.jp](mailto:ohtsubo@tokyocivil.co.jp)

### <箱根発生期団体研究グループ>

新年度になり張り切って活動しています。最近は論文化の作業のため室内団研が主ですが、5月以降は野外活動も再開する予定です。

高齢化は加速度的に進んでおり、メンバーの体調はがたがたですが、頭脳の方は健在です。したがって相変わらず口達者な年寄り集団としてのわが団研の近未来はまだ明るいです。

春の団研予定は以下の通りです。

3月11日（火）室内団研：池袋地団研事務所 11時集合

4月15日（火）室内団研：池袋地団研事務所 11時集合

連絡先：宮城晴耕 [smiyagi@kir.biglobe.ne.jp](mailto:smiyagi@kir.biglobe.ne.jp)

右は調査地域の一つ地蔵堂付近にみられる夕日の滝。  
この付近に分布する箱根火山堆積物の最下部層である和田山層を流れ下り基盤の足柄層群畑沢層へ落下している。



### <福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ（略称：原発団研）>

2025年2月14日で団研発足から10年周年を迎えました。2021年7月末に専報61を出版、2022年7月末にはブックレット16を出版、そして2024年7月末にはブックレット18を出版しました。原発団研では2025年4月5～6日に、対面式（5日はオンライン併用）で「2025年春の原発団研」を開催する予定にしています。団研発足10周年記念の学習会やコンパも計画しています。

「2025年春の原発団研」では、福島第一原発の汚染水・海洋放出問題の最新の状況を確認するとともに、浜通りでの大年寺層の現地調査などを実施する予定です。

連絡先：柴崎直明 [nshiba@sss.fukushima-u.ac.jp](mailto:nshiba@sss.fukushima-u.ac.jp)